

F2-01
E4-06

## 授業づくりの基礎・基本 —学校全体で授業改善に取り組むために—

### 研究の概要

『岡山県教育振興基本計画 <sup>ひら</sup>—未来を拓く 人づくりプラン—』(2010, 岡山県教育委員会)の「学力向上策の推進」の中で、「教員の指導力向上」が明示され,各学校において校内研修における授業研究が一層推進されるようになった。しかし,学習指導案の検討会や公開授業後の研究協議の際に,授業づくりの視点に基づいた協議を行い,授業改善の方法を見いだすまでには至っていない状況が多く見られる。

そこで,本研究では「授業づくりの基礎・基本」として,授業づくりの進め方と留意点を明らかにし,リーフレットにまとめた。このリーフレットの活用を促し,学校全体で取り組む授業改善を推進する。

### キーワード

授業づくりの基礎・基本, 学校全体, 授業改善, 学習指導案, チェックリスト

### 目次

I はじめに.....1	(4) 授業展開の構想.....4
II 研究の目的.....1	IV 今後の展望.....5
III 研究の内容.....1	V おわりに.....5
1 授業改善の取り組みの現状と課題...1	資料 「学習指導案の形式(例)と指導 ・助言のポイント」.....7
2 授業づくりの基礎・基本.....2	資料 「授業づくりのためのチェックリ スト」.....9
(1) 単元(題材)目標の設定.....3	
(2) 児童生徒観の明確化.....4	
(3) 単元(題材)観・指導観の明確化...4	

### 岡山県総合教育センター

教科教育部長	平賀 和治
指導主事	塩崎 弘之
指導主事	片岡 学
指導主事	西林 哲郎
指導主事	福田 知子
指導主事(主任)	田中 誠一郎
指導主事	岡本 邦尚
指導主事	大久保 三月
指導主事	片岡 一公
指導主事	片山 淳一

# 授業づくりの基礎・基本

## —学校全体で授業改善に取り組むために—

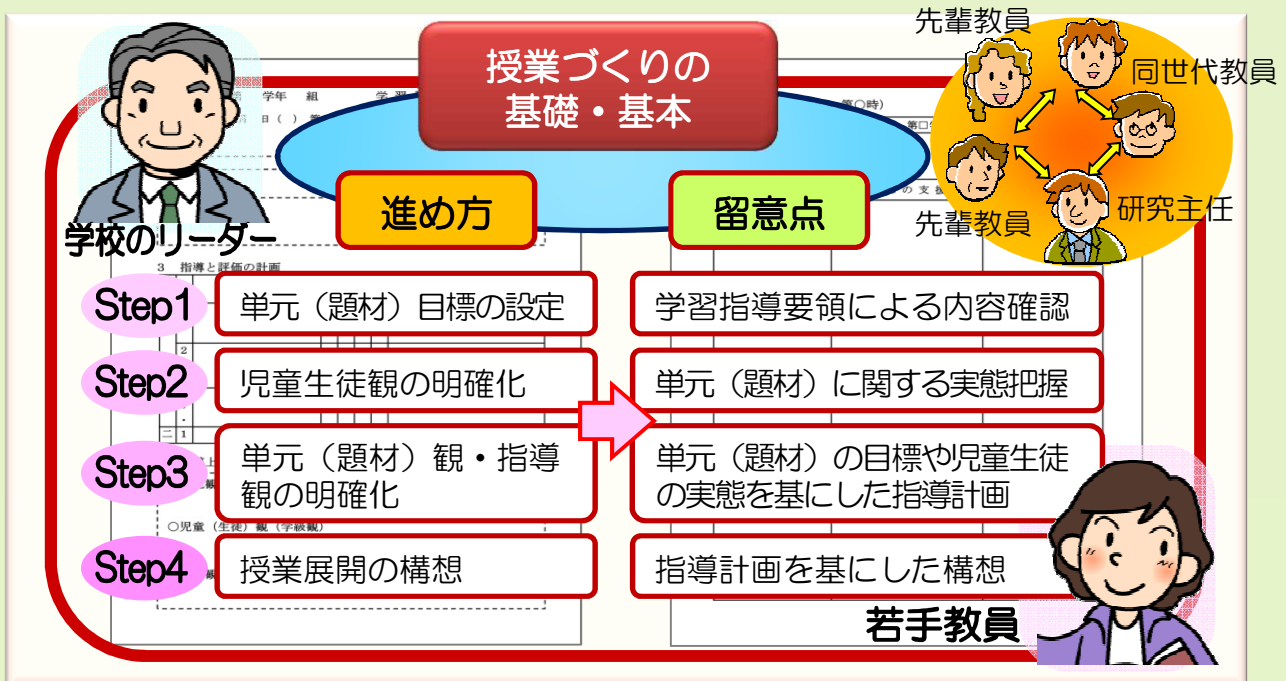
**研究の背景** 授業研究を推進するも、授業改善に至っていない状況が見られる

- 『岡山県教育振興基本計画』（2010, 岡山県教育委員会）の「学力向上策の推進」の中で、「教員の指導力向上」が明示され、校内研修における授業研究が一層推進されるようになった。
- しかし、授業改善の方法を見いだすまでには至っていない状況が多く見られる。

**研究の目的** 授業づくりの進め方と留意点をリーフレットにまとめ、活用を促す

「授業づくりの基礎・基本」として、授業づくりの進め方と留意点を、協力校等からの聞き取り調査、授業づくりに関するガイドブック等の文献研究により明らかにし、リーフレットにまとめるとともに、授業改善に向け活用を促す。

**研究の成果** リーフレット「授業づくりの基礎・基本」



**今後の展望** 学校での活用を促す、校種別のガイドブックを刊行する

- 県内各学校に配付し、授業研究等における活用を促し、評価を把握する。
- 校種別のガイドブック「授業づくりの基礎・基本」に役立つ具体的な提案をする。

(イラストは、株式会社ジャストシステムのものを使用しています。)

# 授業づくりの基礎・基本 —学校全体で授業改善に取り組むために—

## I はじめに

平成22年2月の『岡山県教育振興基本計画 —未来を拓く 人づくりプラン—』(2010, 岡山県教育委員会)の「学力向上策の推進」の中で、「教員の指導力向上」<sup>1)</sup>が明示され、「主な取り組み」として、「ミドルリーダーによる授業改革の推進」「研究指定校における授業研究とその課題・成果の検証・普及」「退職校長・教員等を活用した学校の組織力, 教員の授業力の向上」等により, 全ての学校の授業力向上を図るという施策の方向が示されている。

こうした動向を受け, 各学校において校内研修における授業研究が一層推進されるようになってきた。しかし, 学習指導案の検討会や公開授業後の研究協議の際に, 授業づくりの視点に基づいた協議を行い, 授業改善の方法を見いだすまでには至っておらず, 学力向上に十分に結び付いていない状況が多く見られる。

そこで, 本研究では, 県内の小学校, 中学校, 高等学校, 中等教育学校に通底する「授業づくりの基礎・基本」となる, 授業づくりの進め方と留意点を明らかにし, リーフレットにまとめるとともに, 各学校においてこのリーフレットの活用を促し, 学校全体で取り組む授業改善を推進していきたいと考える。

## II 研究の目的

県内の小学校, 中学校, 高等学校, 中等教育学校に通底する「授業づくりの基礎・基本」となる, 授業づくりの進め方と留意点を, 協力校等からの聞き取り調査, 都道府県, 政令指定都市等が刊行, Web掲載している授業づくりに関するガイドブック等の文献研究により明らかにし, リーフレットにまとめるとともに, 授業改善に向け活用を促す。

## III 研究の内容

### 1 授業改善の取り組みの現状と課題

県内の授業改善の取り組みの現状について, 岡山県教育庁指導課(2012)は, 平成24年度実施の全国学力・学習状況調査における学校質問紙調査の結果<sup>2)</sup>を基に, 平成19年度から平成24年度までの県内小・中学校の校内研修の実施状況(図1)を報告している。

この図が示すように, 小学校においては, 全国平均をやや下回る年度があるものの, 90%以上の実施率で推移してきており, 中学校においては, 平成22年度を機に, それまでの70%程度の実施率が80%近くまで向上し, 全国平均をやや下回るものの, 校内研修における授業研究が推進されるようになってきた。

また, 高等学校においては指導教諭等による公開授業が実施されてきており<sup>3)</sup>, 平成24年度後期(10月~2月)には, 普通科, 商業科, 工業科等で計33回の公開授業が実施されている<sup>4)</sup>。

一方, 小・中学校における校内研修の取り組みや, 高等学校における公開研究授業等の取り組みの中で, 本研究の協力校である小・中・高等学校教員からの聞き取り調査を実施したところ,

小学校					
	H19	H20	H21	H22	H24
岡山県(%)	92.6	91.1	92.7	95.0	92.4
全国(%)	91.3	92.7	93.7	94.4	94.6
差	1.3	▲1.6	▲1.0	0.6	▲2.2
中学校					
	H19	H20	H21	H22	H24
岡山県(%)	69.9	67.7	68.1	78.8	79.2
全国(%)	78.5	81.2	82.5	83.2	85.3
差	▲8.6	▲13.5	▲14.4	▲4.4	▲6.1

図1 模擬授業や事例研究等実践的な研修の実施率(県内小・中学校)

小学校の校内研究主任からは、「事前の学習指導案の検討会や公開授業後の研究協議の際、何について検討したり協議したりしていけばよいかよく分からず、運営に関して自信がない」こと、中学校の校長からは、「いわゆる『教科等の壁』を超えた授業改善を推進していきたいが、教員の中で授業を構想したり評価したりする視点の共有化を図ることが課題である」ことが聞かれるなど、授業づくりの視点の明確化、共有化に課題をもっていることが分かった。また、高等学校のある中堅教員からは、「授業を進める際に、生徒が経験してきている小学校での授業の進め方が大変参考になり、自分の授業でも小学校の授業のように発問を工夫し、生徒との対話を大切にしている」ことが聞かれ、授業づくりの視点については、校種の違いに関係なく共通して重視すべきことが分かった。

以上のように、協力校の教員等からの聞き取り調査によって、授業づくりの視点の明確化、共有化が必要であることが確認できたが、これらの視点に基づいた校内研修が実施されているかどうか重要であると考えられる。岡山県総合教育センターでは、学校支援の事業として、要請のあった学校に指導主事を派遣し、「学校力向上サポートキャラバン事業」を展開しているが、その中で授業研究への支援に当たった6名の指導主事からの聞き取り調査によると、「授業づくりの主張点となる指導仮説の設定が個々の授業者に委ねられていて、学校全体での授業改善の取り組みになりにくい」「研究協議の際に、授業者へのねぎらいの声はかけられるが、授業づくりの視点に基づいた本質的な協議になりにくい」ことなどが、訪問した延べ約50校の学校に共通の課題として聞かれた。これらのことから、各学校において、授業づくりの視点に基づいた協議を行い、本県の重要課題となっている授業改善の方法を見いだすまでには至っておらず、学力向上に十分に結び付いていないという現状があると考えられる。

## 2 授業づくりの基礎・基本

先に述べた現状と課題を踏まえ、本研究では、まず、授業づくりの進め方を明らかにし、次に、それぞれの段階における留意点を明らかにしていくことにした。

協力校からの聞き取り調査の中で、中学校の校長からは、「授業改善を進めていく中で、本校教員には、学習指導案を適切に書けるようになってほしいと考えている」ことが聞かれ、「特に、本時案だけでなく、まず、『単元目標』や、この単元が何をねらい、学ぶ意義がどのようにあるのかについて言及する『指導上の立場』などから書けるようにしたい」ことが聞かれた。つまり、授業づくりについて、基本から考えさせたいという意志が確認できた。また、研究委員からの聞き取り調査でも、昨今の学校での授業づくりについて、「学習指導案の中には、学習指導要領で示された目標及び内容を十分踏まえていないと見られるものがある」「国立教育政策研究所から評価規準の作成に資する資料等が出されていないながら、活用されていないようである」などのことが聞かれ、多くの学校で授業づくりの基本から見直す必要があることが確認できた。

以上のことから、授業づくりの進め方として、単元（題材）目標の設定から本時の授業の構想までの過程を明らかにし、これらを「授業づくりの基礎・基本」とする必要があると考えられた。

そこで、都道府県、政令指定都市等が刊行、Web掲載している授業づくりに関するガイドブック等の文献研究を行った結果、授業づくりの進め方については、『平成24年度 東京都若手教員育成研修研修テキスト』（2012、東京都教職員研修センター）の「第5章 教員に求められる基本的な4つの力Ⅰ ～学習指導力～」の「2 授業づくり」<sup>3)</sup>に示されているものが、本研究で考える「授業づくりの基礎・基本」と軌を一にするものであると考えられた。つまり、「指導観の確立」の中に盛り込まれている「単元・題材観」「児童・生徒観」「教材観」と、それらの指導観の確立の下でなされる「授業の構想」までの過程を県内の教員が共通に確認すべき過程と考え、これらを参考に、Step1「単元（題材）目標の設定」、Step2「児童生徒観の明確化」、Step3「単元（題材）観・指導観の明確化」、Step4「授業展開の構想」の四つの「Step」を明らかにした（図2）。

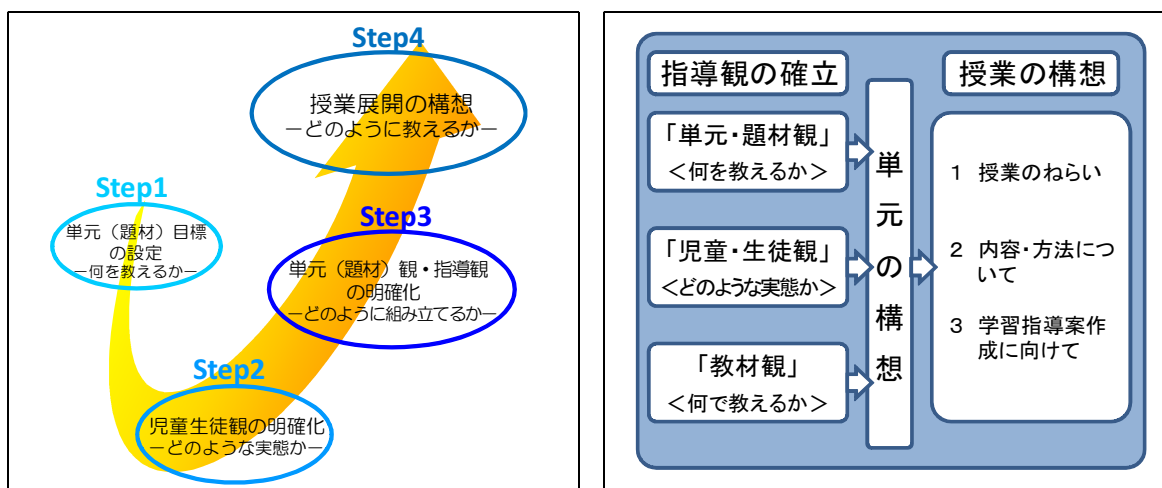


図2 授業づくりの進め方（左）及び『平成24年度 東京都若手教員育成研修研修テキスト』（2012，東京都教職員研修センター）の「第5章 教員に求められる基本的な4つの力Ⅰ ～学習指導力～」の「2 授業づくり」に示されているもののイメージ図（右）

次に、四つのStepにおける留意点として何を掲載すべきかについて、先の研修テキストに加え、『授業づくりポイント10』（2010，宮城県仙台教育事務所）<sup>4)</sup>、『わかる授業づくりに向けて 学習指導のポイント10』（2010，函館市教育委員会）<sup>5)</sup>等を参考に検討した。さらに、各学校における学習指導案を基にした授業研究の実施を想定して、本センターが提案している「学習指導案の形式（例）と指導・助言のポイント」<sup>6)</sup>に沿って、四つのStepと「学習指導案との関連」をリーフレットの中で示すとともに、学習指導案の検討，公開授業並びに授業後の研究協議の実施における活用を想定して、「授業づくりのためのチェックリスト」を掲載することとした。

「授業づくりの進め方」として、四つのStepにおける留意点を述べることにする。

(1) Step1 単元（題材）目標の設定

ここでは、「何を教えるか」について明確にすることが重要である。

ア 学習指導要領で示された目標及び内容を確認する。

授業研究等で作成された学習指導案の中には、学習指導要領で示された目標及び内容を十分踏まえられていないものが多く見られる。教科書の指導書等にも具体的な目標の設定例が示されているが、それを転記しただけと見られるものがあり、授業者が明確に単元（題材）目標を認識できていない現状がある。そこで、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程を編成する際の基準として定められた学習指導要領に立ち返り、そこで示された目標及び内容を確認することが大切である。

イ 『評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料』（2011，2012，国立教育政策研究所）に示された「評価規準の設定例」を参考に評価規準を設定する。

学習指導要領の改訂に伴い、学習評価についても改善が図られた。しかし、作成された学習指導案を見ると、その趣旨が十分理解されていないものも多く見られる。学習評価については、小・中・高等学校の各校種向けに刊行されている『評価規準のための参考資料，評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準の設定例を参考にして評価規準を設定し、指導と評価の一体化を図る必要がある。

ウ 指導内容の系統を確認する。

小・中・高等学校の連携が重視される中、学習指導において系統性を意識することは児童生徒の学力向上を図る上でも重要である。したがって、単元（題材）目標の設定の際には、本単元（題材）と関連のある単元（題材）・教材をいつ学んだかだけでなく、どこまで学習し、どのような力を身に付けてきたかなど、これまでの学習の経緯を把握するとともに、どのような学習に発展し、

どのような力を身に付けさせていくかなど、これからの学習の展開も併せて把握することが大切である。

## (2) Step2 児童生徒観の明確化

ここでは、「どのような実態か」について明確にすることが重要である。

### ア 単元（題材）に関する児童生徒の実態（学習到達状況）を確認する。

作成された学習指導案を見ると、児童生徒の学校での一般的な生活状況や、一般的な学習態度や興味・関心だけが記述されているものが多い。しかし、単元（題材）における授業づくりを進めていく上では、その単元（題材）に関する児童生徒の実態を把握しておくことが大切である。そこで、「児童生徒の実態を明確に捉えるための視点」を明確にし、本単元（題材）の学習内容に関する児童生徒の学習到達状況について、学級全体だけでなく、児童生徒一人一人に対して教科等の特性を踏まえ、客観的な見方をするように努める必要がある。その際には、全国及び岡山県の学力・学習状況調査や岡山県教育委員会による読解力テスト、学習到達度確認テスト等の活用も考えられる。

## (3) Step3 単元（題材）観・指導観の明確化

ここでは、「どのように組み立てるか」について明確にすることが重要である。

### ア 単元（題材）の目標や児童生徒の実態を基に、単元（題材）の指導計画を構想する。

指導計画の構想に当たっては、単元（題材）目標を達成するために、今ある児童生徒が、何を、どのような順序で、どのような活動を通して学んでいけばよいかという効果的な道筋を想定することが大切である。また、これについては、(1)、(2)で述べた「単元（題材）目標の設定」「児童生徒観の明確化」の確実な実践が前提になっており、こうした留意点に則した単元（題材）の指導計画の構想が大切である。また、「指導と評価の一体化」の観点から、評価時期を考え、バランスよく評価できるように評価計画を構想することも大切である。

### イ 目標や児童生徒の実態に適した指導の方法や手だてを明らかにする。

公開授業の中には、教材・教具を効果的に活用した授業が見られる一方で、その活用が形骸化したり活用することが目的化したりしている授業も見られる。そこで、「単元（題材）の目標につながっているかどうか」「児童生徒の実態に合っているかどうか」などに留意して教材研究を行い、児童生徒の理解の様子を見ながら、教材・教具を単元（題材）の目標達成のために活用していくことが大切である。そのためには、まず、教材・教具の価値や特性を理解することから始める必要がある。

## (4) Step4 授業展開の構想

ここでは、「どのように教えるか」について明確にすることが重要である。

### ア 単元（題材）の指導計画を基に、本時の授業展開を構想する。

作成された学習指導案の中には、「本時の目標」が単元（題材）の目標と整合していなかったり、「教師の指導・支援」に、児童生徒の反応予想やそれに基づいた手だてが記述されていなかったりと、参観者への説明責任を果たす上でやや不十分と見られるものがある。そこで、適切な記述のために必要とされる観点について、岡山県総合教育センターの17名の指導主事からの聞き取り調査によって得られた結果を集約し、作成上の留意点をまとめた。これらの留意点を踏まえて学習指導案を作成する中で、授業者が授業づくりの視点を明確にもつとともに、参観者がそれを共有し、学習指導案の検討会や公開授業後の研究協議の際に授業づくりの視点に基づいた充実した協議を進めていくことが大切である。

また、授業を展開する際には、「発問の工夫」や「構造的で分かりやすい板書」など、「学習指導の工夫」も大切である。そこで、別にまとめたリーフレット『授業づくりの基礎・基本』（以下、「リーフレット」という。）にも、前述のものに加え、「学習形態の工夫」「机間指導の工夫」及び「指示・説明の工夫」について、それぞれの趣旨とともに、幾つかの留意点をまとめた。授業実践に当たっては、学級の実態に応じて特別な支援を必要とする児童生徒の実態を明確にした上で、

適切な支援を想定しておくことも大切である。

#### IV 今後の展望

本研究の今後の展望として、次の二つのことを実施していくことを考えている。

まず、一つ目は、作成したリーフレットを本年度末に県内各学校に配付し、次年度当初からの授業研究等における活用を促すことである。リーフレットの巻末には、授業づくりの進め方に関するStep 1からStep 4を総点検する「授業づくりのためのチェックリスト」を掲載し、授業者と参観者で授業づくりの視点の明確化、共有化を図りながら学校全体で授業改善を進めていく上での活用を期待している。また、学校への配付だけでなく、研修講座における活用はもちろんのこと、学校訪問を行う指導主事がリーフレットを携行し、その内容を適宜紹介しながら指導・助言を行うことにより、事前の学習指導案の検討会や公開授業後の研究協議の際に、授業づくりの視点に基づいた協議が行われ、授業改善の方法が見いだせるようにする。さらに、リーフレットを学校教員がどのように活用し授業研究に役立っているかについて実状を把握し、本研究の評価に資する。

二つ目は、本研究のリーフレット「授業づくりの基礎・基本」を基に作成した各校種別のガイドブックを刊行し、「授業づくりの基礎・基本」を実際の日常の授業で展開する際の具体例を提案することである。具体的には、複数年次計画で、小学校版（低学年・高学年）と中・高等学校版を刊行することを考えている。

#### V おわりに

本研究では、県内の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校に通底する「授業づくりの基礎・基本」となる、授業づくりの進め方と留意点を明らかにし、リーフレットにまとめるとともに、授業改善に向け、活用を促すことを目指した。

授業像を「木」に例えるなら、本研究は、木の幹に当たる部分に言及するものである。授業づくりを進めるに当たっては、「これだけは大切にしたい」という最低限のものではあるが、「授業力の本質」となるものであると考えている。児童生徒の学力向上が求められている今、対症的な授業改善を推進していくのではなく、「授業とは何か。どうあるべきか」の原点に立ち返って授業改善を進めていくことが重要ではないかと考え、本研究を進めてきた。

なお、本研究では、木の枝葉に当たる部分への言及をしていない。単元の構想や1単位時間の授業において必要とされる具体的な指導技術等については、各校種別のガイドブックの刊行を目指した今後の研究において提案していくことを考えている。

---

#### ○引用・参考文献

- 1) 岡山県教育委員会（2010）『岡山県教育振興基本計画 ー未来を拓く 人づくりプランナー<sup>ひら</sup>ー』, pp. 42-43
- 2) 岡山県教育庁指導課（2012）「学校教育上の課題」, 『平成24年度校長全員研修講座（平成24年9月25日）』
- 3) 東京都教育委員会（2012）『平成24年度 東京都若手教員育成研修研修テキスト』, pp. 65-67
- 4) 宮城県仙台教育事務所（2010）『授業づくりポイント10』
- 5) 函館市教育委員会（2010）『わかる授業づくりに向けて 学習指導のポイント10』
- 6) 山形県教育センター（2010）『単元を構成する力を付け、授業力を高める授業研究ハンドブック』
- 7) 佐藤正寿（2010）『「力をつける授業」成功の原則』 ひまわり社

○Webページ

- ア) 岡山県教育庁指導課：各高校等が実施する公開研究授業について  
(<http://www.pref.okayama.jp/site/16/295565.html>)
- イ) 岡山県高等学校長協会教育指導研究委員会：平成24年度後期（10月～2月）公開研究授業一覧  
([http://www.mitsu.okayama-c.ed.jp/kouki\\_koukai\\_itiran.html](http://www.mitsu.okayama-c.ed.jp/kouki_koukai_itiran.html))
- ウ) 岡山県総合教育センター：学習指導案の形式（例）  
(<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/sidoan/index.htm>)



資料 「学習指導案の形式（例）と指導・助言のポイント」

第 学年 組 学習指導案

平成 年 月 日 ( ) 第 校時 教室 指導者

1 単元（題材）名

-----

2 単元（題材）の目標

- ◇学習指導要領で示された目標及び内容や評価の観点との関連から設定されているか。
- ◇改訂された評価の観点とその趣旨が正しく反映されているか（「表現」に係る観点について改訂あり）。
- ◇授業研究で目指す児童（生徒）像のどの部分を受けているか説明できるものになっているか。

3 単元（題材）の評価規準

- ◇各教科・領域の改訂された観点が正しく反映されているか。
- ◇4の指導と評価の計画に明確に位置付けられているか。
- ◇学習指導要領、学習指導要領解説、国立教育政策研究所の資料等を踏まえた上で、目標に照らして妥当な評価規準が設定されているか。

4 指導と評価の計画（全 ○ 時間）

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	思	技	知	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇3の評価規準が適切に計画に反映されているか。</li> <li>◇単元（題材）の指導計画に、具体的な学習活動及び評価規準が記述されているか。</li> <li>◇体験的な学習や問題解決的な学習、習熟度別学習などが適切に取り入れられているか。</li> <li>◇評価規準の設定が、単元（題材）の目標と整合しているか。</li> <li>◇単元（題材）の目標を達成するために、評価の観点を絞り、単元（題材）全体のバランスを考えて評価の観点を設定しているか。</li> <li>◇単元（題材）の指導計画、評価計画の中で本時の位置付けが明確であるか。</li> </ul>					
	2 . . .						
二	1 .	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇単元（題材）を見通した評価計画が妥当な評価時期、評価場面を想定した適切なものになっているか。</li> </ul>					

5 指導上の立場

○単元（題材）観、教材観

- ◇学習指導要領との関連が示され、整合しているか。
- ◇本単元（題材）で身に付けさせる事柄の系統性が押さえられているか。

○児童（生徒）観（学級観）

- ◇単元（題材）や本時の学習内容に関連したことが書かれているか。
- ◇児童（生徒）の実態を踏まえた指導の手だてや育てたい児童（生徒）の姿が記述されているか。
- ◇授業研究で目指す児童（生徒）像に照らした実態を書き、不十分でもその実態を放置していないことが示されているか。

○指導観

- ◇指導仮説が本単元（題材）・本時のどの場面に効果的に位置付けられ、どのように検証されるのかが書かれているか。

○研究主題との関連

- ◇研究主題の説明が簡潔に分かりやすく書かれているか。
- ◇研究主題と授業研究における指導仮説の関連を説明できているか。

6 本時案 (第〇次 第〇時)

(1) 本時の目標

- ◇本時の目標と評価規準との整合がとれているか。
- ◇本時の目標が単元(題材)の指導計画に則したものになっているか。
- ◇研究主題が目標に反映されているか。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇本時の目標と本時の展開が整合しているか。</li> <li>◇児童(生徒)が主体的に学習に取り組むことができる問題解決的な学習過程となっているか。</li> <li>◇言語活動が本時の展開の中に適切に位置付けられているか。</li> <li>◇児童(生徒)の思考の流れに学習活動が沿っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇児童(生徒)の学習活動と関連させて書かれているか。</li> <li>◇「問題の把握」や「まとめ」の手だてが書かれ、問題解決の指導過程に沿った支援が示されているか。</li> <li>◇具体的な児童(生徒)の反応が想定されているか。</li> <li>◇指導の意図、重点、方法、工夫等の留意すべきことが具体的に書かれているか。</li> <li>◇例えば「努力を要する」状況(C)の児童(生徒)を想定した具体的な教師の支援が書かれているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇本時の目標と評価規準の整合がとれているか。</li> <li>◇1単位時間で見取る評価の観点が絞り込まれているか。</li> <li>◇評価の観点が、その観点を見取る学習場面に適切に対応しているか。</li> <li>◇設定された評価場面での具体的な評価方法が明確に示されているか。</li> </ul>
<p>研究授業／研究協議</p>		
<p>&lt;授業後の研究協議における指導・助言のポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 本時の目標は、単元(題材)の目標や児童(生徒)の実態に照らして妥当かどうか。</li> <li><input type="checkbox"/> 本時の目標が実現できていたか。</li> <li><input type="checkbox"/> 研究協議の内容が、「目標としていた児童(生徒)の姿が実際に、どの児童(生徒)にどの程度見られたか」と「指導仮説に係る指導が実際になされていたか。その効果はどうであったか」の二つは最低限含まれたものになっているか。</li> <li><input type="checkbox"/> 評価はどのように行われていたか。(「努力を要する」状況(C)の児童(生徒)への支援は適切だったか)</li> <li><input type="checkbox"/> 授業者の意図した評価ができていたか。学習活動と教師の支援、評価の観点及び評価方法など妥当であったか。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 板書、実物投影機、掲示物などは目標を達成するために効果的に使用されているか。</li> <li><input type="checkbox"/> 問題の把握が十分できていたか。また、振り返りの時間は十分に確保されていたか。</li> <li><input type="checkbox"/> 集団解決の場面で、目標達成に向けた話し合いが展開され、児童(生徒)が発表した多様な考えを基に集団としての考えを深めるような展開ができたか。</li> </ul>		
<p>学習指導案についての指導・助言に当たっては、学習指導要領、学習指導要領解説、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』(国立教育政策研究所)は必携資料です。そのほか、『言語活動の充実に関する指導事例集』(文部科学省)なども参考になります。</p>		

## 授業づくりのためのチェックリスト

学校全体で授業改善に取り組むためには、授業者と参観者で授業づくりの視点の明確化、共有化を図ることが大切です。チェックリストを活用して、授業づくりの視点に基づいた協議を行い、授業改善を目指しましょう。

### ◆授業前・・・学習指導案を確認しましょう。

	単元（題材）の目標は、学習指導要領解説等に示された目標や内容を踏まえて設定されているか。
	単元（題材）の評価規準は、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』に示された「評価規準の設定例」を参考に設定されているか。
	単元（題材）の指導内容に関する児童生徒の実態（学習到達状況）を把握することができるか。
	本単元（題材）で取り上げる評価の観点が、指導と評価の計画の中にバランスよく位置付けられているか。
	本時の目標は、単元（題材）の指導計画に則して、具体的に示されているか。
	本時の目標は、本時の評価規準と整合しているか。
	学習過程に沿って、指導・支援の意図、工夫、手だてなどが、具体的に示されているか。
	「努力を要する」状況（C）と判断した児童生徒への手だての例が、具体的に示されているか。

### ◆本時の授業・・・授業の流れに沿って確認しましょう。

	児童生徒の興味・関心を高めるための導入の工夫がなされているか。
	児童生徒に学習の見通しをもたせるための工夫がなされているか。
	適切な指示・説明・発問が行われているか。
	新たな気付きを促したり、多様な考えを引き出したりする発問が行われているか。
	板書は、授業内容を構造的で分かりやすく示すものになっているか。
	机間指導により、一人一人の学習状況を把握し、指導に生かしているか。
	展開に応じて、グループ活動やペア学習などを効果的に取り入れているか。
	目標を達成するためにふさわしい教材・教具が使用されているか。
	児童生徒が自分の思いや考えを説明することのできる場を設定しているか。
	評価の場面において、適切に評価が行われているか。
	振り返りの時間を確保し、児童生徒に学習の成果を自覚させているか。
	課題（めあて・目標）と整合性のあるまとめがなされているか。

### ◆授業後の協議の視点・・・次のような視点で振り返りましょう。

- どのような活動を通して、付けたい力を身に付けさせていたか。
- その力を身に付けさせるために、どのような工夫がなされていたか。
- 本時の評価は、どの段階で、どのように行われたか。
- 「努力を要する」状況（C）と判断した児童生徒に、どのような手だてが講じられたか。
- 「おおむね満足できる」状況（B）または「十分満足できる」状況（A）と判断した児童生徒の姿は、どのような姿であったか。



平成24年度岡山県総合教育センター所員研究  
(共同研究；学習指導法)

「授業づくりの基礎・基本 ―学校全体で授業改善に取り組むために―」  
研究委員会

指導助言者

木原 俊行 大阪教育大学教授

協力校

玉野市立山田小学校

玉野市立山田中学校

岡山県立鴨方高等学校

研究委員

平賀 和治	岡山県総合教育センター教科教育部長
塩崎 弘之	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
片岡 学	岡山県総合教育センター教育経営部指導主事
西林 哲郎	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
福田 知子	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
田中誠一郎	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事 (主任)
岡本 邦尚	岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事
大久保三月	岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事
片岡 一公	岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事
片山 淳一	岡山県総合教育センター情報教育部指導主事

平成25年2月発行

岡山県総合教育センター 研究紀要 第6号

研究番号12-01

授業づくりの基礎・基本 ―学校全体で授業改善に  
取り組むために―

編集兼発行所 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL (0866)56-9101 FAX (0866)56-9121

URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

E-MAIL [kyoikuse@pref.okayama.lg.jp](mailto:kyoikuse@pref.okayama.lg.jp)